

令和2年度上半期 練馬区地域ケア圏域会議 実施状況一覧

| 圏域  | 実施日             | 参加者(関係機関等)  | 参加者数 | テーマ/目的  | 検討結果  |
|-----|-----------------|---|------|---|---|
| 練馬  | 令和2年10月<br>書面開催 | 民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、地域包括支援センター等                               | 15人  | 【テーマ】<br>新型コロナウイルス感染症の流行を受けて<br>【目的】<br>・「新しい生活様式」が求められる中、私たちはどのように高齢者の支援を続けていけばよいかについて検討する。<br>・圏域で実施された地域ケアセンター会議等の実施状況について、関係者間で共有する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書面開催に伴う意見集約により、以下の意見があった。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で、人と人との接触を避けるためインターネット等を活用した情報提供や会合等が増えたが、高齢者は利用することが難しい状況がある。</li> <li>・民生委員の活動である見守り訪問等が難しくなっている。また、町会活動等は人の集まりであるため、全てを自粛するしかなかった。</li> <li>・不要不急な外出を控えたり、自粛する方がいるなかで、運動やトレーニングなどフレイル予防の重要性が増している。</li> <li>・以上から、外出の自粛やイベントの縮小等により高齢者の心身状態の低下が心配されるため、支援者は「うつさない、そのためには自分がうつらない」ことに注意しながら、手を緩めずに支援を進めていく必要がある。</li> </ul> |
| 光が丘 | 令和2年9月30日       | 民生児童委員、町会・自治会、社会福祉協議会、介護サービス事業所、ねりま若者サポートステーション、保健相談所、地域包括支援センター等 | 22人  | 【テーマ】<br>ひきこもりの方を世帯に有する要援護高齢者への支援<br>【目的】<br>・ひきこもりの方を世帯に有する要援護高齢者への支援の現状把握と課題の抽出を行う。<br>・圏域で実施された地域ケアセンター会議等の実施状況について、関係者間で共有する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもりの方を世帯に有する事例について、関係者間での情報共有と意見交換を行った。</li> <li>・保健相談所から、ひきこもりの定義や8050問題について説明をいただいた。</li> <li>・ねりま若者サポートステーションと地域包括支援センターより、ひきこもりの方を世帯に有する要援護高齢者の支援について、実際に連携した事例の報告をいただいた。</li> <li>・社会福祉協議会より、生活支援コーディネーターや「生活支援サービスの充実に関する協議体」の取組み等について説明をいただいた。</li> <li>・複合課題を抱える世帯の課題解決には、関係機関の「連携」と「総合力」が重要であるとの認識を関係者間で共有した。</li> </ul>   |
| 石神井 | 令和2年9月<br>書面開催  | 民生児童委員、警察署、地域包括支援センター、保健相談所、総合福祉事務所等                              | 23人  | 【テーマ】<br>新型コロナウイルス感染症によって変わった地域の変化と今後の対応<br>【目的】<br>・新型コロナウイルス発生後の地域の課題を探り、今後の対応について検討する<br>・各地域包括支援センター長との個別面談により、地域の状況について把握し解決策について検討する。<br>・圏域で実施された地域ケアセンター会議等の実施状況について、関係者間で共有する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地域の変化や今後の対応について、アンケート調査により意見集約を行った。</li> <li>・地域の変化については、民生児童委員より、「外出控えや集まる場の減少により住民と会える機会が減った、情報が入りにくくなった、生活困窮者の増加」等の意見があった。</li> <li>・支援で困っていることについては、保健相談所より、「健診・訪問を断る家庭がある、集団の講話ができない、受診控え、通所控えの利用者への促しが難しい」等の意見があった。</li> <li>・対策として、感染症の正しい理解や情報提供、関係機関への生活困窮者への対応に対する研修の実施、感染予防の正しい知識の周知と環境づくり等について意見があった。</li> </ul>                                |
| 大泉  | 令和2年11月<br>書面開催 | 民生児童委員、三療師会、地域包括支援センター等   | 10人  | 【テーマ】<br>新型コロナウイルス感染症との共存社会<br>【目的】<br>・新型コロナウイルス感染症の流行および緊急事態宣言の前後において、高齢者の様子や相談内容に生じた変化を共有するとともに、どのようなアプローチが必要かを考える。<br>・新型コロナウイルス感染症の流行および緊急事態宣言の前後において、支援者が業務を行う際に生じた困り事を共有するとともに、業務継続に必要な支援を考える。また、工夫した事を共有し、業務に活かす。<br>・圏域で実施された地域ケアセンター会議等の実施状況について、関係者間で共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートにより、以下のようなご意見があった。</li> <li>・外出自粛や家族・地域との関わりの減少等により、身体機能・認知機能の低下、うつ症状の出現等が見られる高齢者が増えている。また、それに伴う相談が増えている。</li> <li>・高齢者だけでなく、その家族の精神面が不安定な部分が目立つ。家族間のトラブルが多く見られた。</li> <li>・リモートでの体操教室や集いの場の設定等が必要ではないか。また、屋外で密にならずに集えるような場（ベンチや健康遊具の設置等）も有効ではないか。</li> <li>・訪問を控えたり、電話での対応等となったため、個人や地域の状況把握が難しくなった。</li> <li>・移動販売や宅配等買い物支援サービスの充実が必要。</li> </ul>                    |

## 令和元年度下半期 練馬区地域ケア圏域会議 実施状況一覧

| 圏域  | 実施日       | 参加者(関係機関等)   | 参加者数 | テーマ/目的  | 検討結果   |
|-----|-----------|--|------|---|--|
| 石神井 | 令和2年2月28日 | 民生児童委員、弁護士、司法書士、三療師会、社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)、警察署、地域包括支援センター、保健相談所、総合福祉事務所等 | 25人  | <p>【テーマ】<br/>身寄りのない高齢者への支援について</p> <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りのない高齢者の事例を通して関係機関の情報共有を行い必要な支援の構築を行う。</li> <li>・専門職からのアドバイスを今後の支援にいかす。</li> <li>・圏域で実施された地域ケアセンター会議等の実施状況について、関係者間で共有する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りがなく体調等の急変が心配され、友人が金銭管理を実施している事例について、参加者での検討を行った。</li> <li>・弁護士より、「身寄りのない高齢者の金銭管理について医療機関から相談が多く入るようになった。弁護士会としては「ホームロイヤル契約」を勧めている。」等の意見があった。</li> <li>・「身寄りのない高齢者の後見人を受けるということは、その人の人生を背負うことになる。安心して受任できるような環境の整備が必要である。」「精神障害の家族と暮らす高齢者のケースの相談が増えている。高齢者に認知症があると支援が困難となるため、関係機関と協力することが必要である。」等の意見があった。</li> </ul> |

練馬、光が丘、大泉の地域ケア圏域会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止